

ミツバチから見る生物多様性リスク (TNFD)

ミツバチは、生産を支えるインフラです

- 事業は自然に依存している（受粉＝生産基盤）
- 同時に自然へ影響を与えている（農薬・土地利用）
- その関係は連鎖し、事業リスクになる

リスク

受粉低下 → 収穫減 → 価格上昇 → 供給不安定

受粉コストは上昇しており、供給不足による価格変動が発生しています

これは環境問題ではなく、調達とコストの問題です

ミツバチと事業のつながり

自然と事業は一つの流れでつながっている



影響

農薬・土地利用 → ミツバチ減少



リスク

収穫減・品質低下・コスト増



- この流れのどこかが止まると、事業が止まります
- 自社はこの流れのどこに位置していますか
- この流れは自社だけではコントロールできません

気づいたときには供給が戻らない可能性があります

業界別に見る影響

生物多様性の変化は、業種ごとにリスクとして現れる

食品・飲料

- 収量低下
- 原価率+3%
- 利益半減の可能

性迫

小売・流通

- 供給不安定
- 仕入価格上昇
- 粗利低下

外食

- 食材調達難
- メニュー制約
- 利益低下

製造業

- 原材料リスク
- 調達コスト増
- 生産影響

金融

- 投融資先リスク
- 信用・評価リスク

すべての業種で、形を変えて事業リスクとして現れます

なぜ今対応が必要か

主要企業ではすでに開示・対応が始まっています

- 開示要請の拡大（TNFDなど）
- 金融機関が評価を開始している
- サプライチェーン全体に波及する
- 対応の遅れは調達コスト増・機会損失につながる

.....
対応しないこと自体がリスクになる時代です
.....

何から始めるか

TNFDの出発点は「可視化」

STEP
0

影響を受ける事業の特定

STEP
1

依存の特定

どの自然に依存しているか

STEP
2

影響の把握

どのような影響を与えているか

STEP
3

優先順位付け

重要領域から対応

自然は外部環境ではなく、事業の基盤

まず何を見るか

- 主要原材料は何か
- どの地域から調達しているか
- その地域の自然資本は何か
- どの工程で依存しているか

.....
ここが、最初に可視化すべき領域です
.....